

原発 ゼロ にむかって

2012年7月4日 No.24

<http://www.tokyominiren.gr.jp/>

編集・発行／東京民医連事務局 tel : 03-5978-2741 fax : 03-5978-2865 mail : sien@tokyominiren.gr.jp

果樹農家

原発をなくす運動に積極的に関わって欲しい

事務2年目研修のフィールドワークで、福島市で梨とリンゴを生産する果樹農家・阿部哲也さん（産直センターふくしま理事長・福島県北農民連副会長・福島市認定農業者会副会長）から、東電福島第一原発事故による農業被害について話を聞きました。

事故を起こした原発から65km離れているが、農地に大量の放射能が降り注いだため、去年は作ったくものを出荷できなかった。食品に含まれる放射性物質の基準値が、1kgあたりの放射性セシウムが500ベクレルから今年4月、100ベクレルに引き下げられた。私が生産したくものは、去年は70ベクレルだった。去年は500ベクレルに対して70なので低い印象だったが、今年は100に対して70と相対的に高くなってしまった。これだと消費者は買わないし、生産者も自己規制して売らなくなるという苦しい状況にある。

東京電力から農業被害に対する補償を勝ち取ったが、それは一時的なものでしかない。果樹農家は一本の木で何十年も収穫するため、これは人生をどう選択していくかという問題だ。農家は土地がある限り土地から離れることはできない。樹木の除染はしたが、土は汚染されたまま。3.11前の土地に戻すことこそが全面賠償だ。被害が続く限り、東京電力に補償を求めてたかかっていく。

福島県民は原発被害の深刻さを誰よりも知っている。私はこれからも脱原発のたたかいの先頭に立っていく。みなさんにも原発再稼働を許さない運動、原発をなくす運動に積極的に関わって欲しい。

（東京民医連 中村美弥子）



福島応援訪問交流 in 南相馬・相馬

八王子市内の団体・個人でつくる「放射能から子どもを守ろう原発ゼロへの会」は福島から八王子に避難している人たちの会と協力して6月16日～17日、「福島に飲料水を贈ろう！浜通りでみんなと交流しよう！福島応援訪問交流 in 南相馬・相馬」を行い、バスで40人が参加、現地で13人の方にお話を聴き交流、飲料水、絵手紙などを届けました。

（共立医療会 橘田淑子）

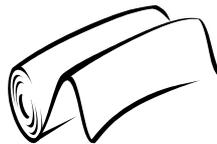
7.16 集会グッズを準備！

○ その1 団扇(うちわ)

自由に「原発ゼロ」の思いを書きこみましょう。
事前に各法人に送ります。活用して下さい。



○ その2 タオル 「さようなら原発」の文字入り



集会当日に参加者に配ります。
タオルをひろげればアピール効果抜群！



さようなら原発 10万人集会

2012 **7/16** MON
(海の日)

代々木公園 イベント広場・ケヤキ並木・サッカー場

東京民医連の参加目標

☆ ☆ **1900人!**